5．まちづくり

52. ハートフル専用パーキング制度

活動分野	まちづくり	活動に参加している障害者			
		障害種別	身体・知的・精神	年齢	18 歳以上
活動地域	福井県	実施主体 【自治体】	名　称：福井県健康福祉部障害福祉課 住　所：福井県福井市大手3丁目 17－1 電　話：0776-20-0338　　fax：0776-20-0639 URL：http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/shougai/heartpk/heartfulst.html		

活動概要

福井県では、車いす使用者が安全に乗り降りできるスペースを設けた幅の広い駐車区画（以下「車いす使用者用駐車区画」という。）の適正利用を進めるため、ショッピングセンターや医療施設等の出入口のそばにある車いす使用者用駐車区画に、歩行困難な人専用の「ハートフル専用パーキング（身体障害者等用駐車場）」を設置し、対象となる障害があり歩行が困難な人や妊産婦で歩行が困難な人など真に駐車場を必要とする人に利用してもらう制度を平成 19 年 10 月から実施している。

歩行困難な人は、県へ申請することにより利用証が交付され、それを車のルームミラーなどに掛けて提示することにより利用することができる。

活動を始めた背景・経緯

バリアフリー新法や福井県福祉のまちづくり条例により、公益的施設に車いす使用者用駐車区画が整備されるようになったが、車いす使用者は当然であるが、他に誰が利用できるのか、明確にされていなかった。このため、障害のない人による駐車が常態化しており、歩行の困難な障害のある人から、停めたくても停めることができないという声が多くよせられた。

活動目的

県が車いす使用者用駐車区画の利用証を発行し、利用者を明らかにすることで、適正利用を推進する環境を整備することを目的としている。

活動の成果又は効果

平成 21 年 11 月末日現在で、681 施設の協力を得ており、利用証は 2,995 人に対して発行している。

平成 20 年度に行ったアンケートでは、61.8%の利用者が停めやすくなったと回答しており、41.4%の施設設置者が障害のないと思われる人の駐車が減ったと回答している。

活動を継続する上で工夫した点

制度を、利用者をはじめ多くの人に知ってもらうことが重要であるため、県福祉のまちづくり推進協議会委員や障害のある人、小学校児童などと一緒に啓発活動を県内各地で実施している。

活動を継続する上での課題

平成 20 年度に行ったアンケートで、利用者、施設設置者ともに、さらなる啓発活動が必要としている。

今後、より有効な啓発活動を実施していくことが必要。

共生社会実践活動として今後予定しているもの又は実施してみたいもの

制度を、利用者をはじめ多くの人に知ってもらうことが重要であるため、今後もあらゆる機会をとらえて制度の周知に努めていく。

実施体制

障害福祉課職員
県健康福祉センター職員
県福祉のまちづくり推進協議会委員
市町担当課職員、障害者団体会員、小学校児童

キーワード

バリアフリー

53. ユニバーサルデザイン体験ワークショップ

活動分野	まちづくり	活動に参加している障害者			
		障害種別	身体	年齢	全年齢
活動地域	岡山県	実施主体 〔自治体〕	名　称：岡山県土木部都市局建築指導課 住　所：岡山県岡山市北区内山下２－４－６ 電　話：086-226-7504　　fax：086-231-9354		

活動概要

施設管理者･設計者･施工者等を対象に、車いす体験、白杖･アイマスク体験、障害のある人との意見交換等を盛り込んだ研修を行っている。

既存の公共的施設内で疑似体験や介助体験を行い、気付いたことをワークショップ形式でまとめることで、全員の気付きを共有し、今後の職務の参考にしてもらう。

活動内容（H21 年度）
開催場所：岡山県立美術館
参加者：36 名
体験内容：高齢者疑似体験、白杖･アイマスク体験、車いす体験、妊婦擬似体験

活動を始めた背景・経緯

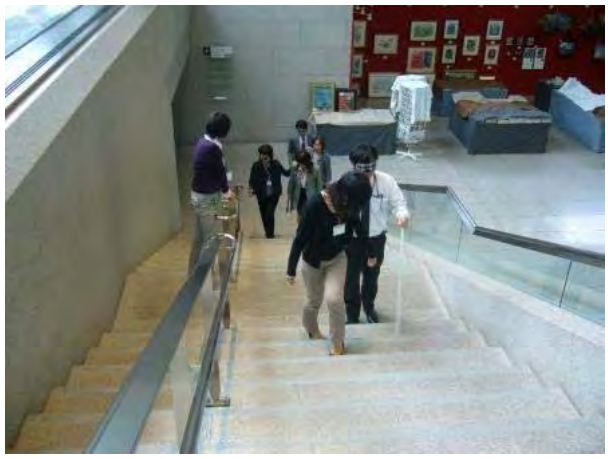
誰もが暮らしやすい地域づくりにとって欠かすことのできない、ユニバーサルデザインの考え方が広く理解され、真に県民に身近なものとして定着し、あらゆる社会活動の基本となることが求められており、施設管理者･設計者･施工者等への啓発を目的としてワークショップを始めた。

活動目的

建築物にユニバーサルデザインの考え方を取り入れて、高齢者や障害のある人を始め、誰もが暮らしやすく移動しやすいまちづくりを進めることを目的としている。

活動の成果又は効果

施設管理者、設計者、施工者等の、ユニバーサルデザイン建築、まちづくりに関する意識向上と技術研鑽が期待できる。



活動を継続する上で工夫した点

・NPO と行政が協働で事業を行い、ワークショップの企画・運営・進行などについて NPO のノウハウを活かしている。
・障害のある人の疑似体験や障害のある人との意見交換を通じてユニバーサルデザインの考え方が具体的に理解しやすく参加者に伝わるよう心がけている

活動を継続する上での課題

障壁のある場所とない場所を利用して、便利さを比較するため、そのようなことを実施するのに効果的な施設の選択が課題となっている。

実施体制

県内の NPO 法人へ事業を委託している。

キーワード

ユニバーサルデザイン、体験、ワークショップ

54. 災害時”自分たちの命は自分たちで守る”聴覚障害のある人と地域の防災活動

活動分野	まちづくり	活動に参加している障害者			
		障害種別	身体	年齢	全年齢
活動地域	山口県防府市 及び隣接市	実施主体 【任意団体】	名　称：防府市聴覚障害者災害対策協議会 住　所：山口県防府市大字西浦 466 (事務局)峯石明子 電　話/fax：0835-29-1824		

活動概要

市内の聴覚障害者団体、中途失聴・難聴者団体のほか、手話サークル、要約筆記サークルを中心に構成される協議会を設立し、聴覚障害のある人と手話通訳者・要約筆記通訳者を含む支援者が協議を重ねながら、情報から取り残される危険性のある聴覚障害のある人への災害情報の伝達など自然災害時の支援体制の確立のために目的意識を持って活動に取り組んでいる。

地域の防災訓練にも多数の聴覚障害のある人が参加するなどし、災害時に聴覚障害のある人とない人がコミュニケーションできるサインづくりも行っている。

＜活動内容＞

・「災害」に関する情報の速やかな収集・伝達を行う。
・各地域の情報交換を行い、それぞれの関係者との集会を開き、聴覚障害のある人への理解を深めるきっかけや学習活動を行う。
・防府市、各地域、隣接市、関係ボランティア団体及び関係機関と連携し活動を行う。
・防府市の聴覚障害のある人の実態や要求を把握し、適切な活動につなげていく。

活動を始めた背景・経緯

防府市は佐波川という一級河川が流れ、山と海に囲まれた地域である。台風の進路に当たることも多く、これまでにも聴覚障害のある高齢夫婦世帯が高潮被害を受けたということがある。

災害時には聞こえないことで情報から取り残されることが命に直結するので、このことは市内の仲間全員同様であるとの思いから、“自分たちの命は自分たちで守ろう”を目指し設立を決意した。

活動目的

災害発生時（事前・事後も含め）どのように対応していくことが自らの命を守り、さらに地域でお互いが助け合うことにつながるか、情報入手が困難な、災害時要援護者となる防府市の聴覚障害のある人を中心に、関係団体・者と共に広く地域の方々と一緒に考え実践し、防災意識を高めていく。

活動の成果又は効果

「防災」の学習を進めていく中で、同じ目的で活動している他団体とのネットワークができ、考え方や活動の範囲が広くなり、会員の意識が向上している。

・防府市自主防災組織に認定
・山口県住み良さジャンプアップ協働事業として活動
・「防災サイン」DVDの製作・SOSカードの作成と消防本部・病院との連携

活動を継続する上で工夫した点

市内を5つの地域に分け、どこにどんな聴覚障害のある人がいて、その支援者としては誰がいるのかといった連絡網をつくり、速やかに情報が提供できるよう、一斉配信システムを構築した。
また、ネットワークを充実するため、関係者との連携を図り、防災意識の向上に努めている。

活動を継続する上での課題

・情報を円滑に流せる体制づくりのため定期的な練習を行う。
・個々の情報把握に努め、いざという時本当に役立つものにする。
・自分を知り、自分の住んでいるこの地域を知り、防災意識を高めるため学習や実践の場を持つ。

共生社会実践活動として今後予定しているもの又は実施してみたいもの

「防災サイン」DVDを製作したので、聴覚障害のある人への理解を促す思いも込め、広く全国へと発信したい。

実施体制

運営委員数：18 名
活動の中心となっている人：聴覚障害者 65 名、支援者 46 名
NPO 法人ぼうぼうネットや水の自遊人しんすいせんたいアカザ隊を中心とした団体と連携し、毎年官民協働の防災訓練に参加している。
年間活動経費：25,000 円

キーワード

防災サイン、聴覚障害、自分たちの命は自分たちで守る

その他

平成 19 年3月に発足したばかりの会だが、この3年間は濃いものであった。目的を見失うことなく長く継続していく会でありたいと考える。